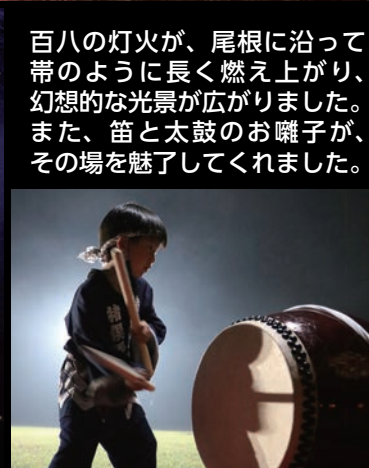




こうして毎年、猪俣の百八燈を開催し多くの方々の笑顔を見ることができましたのも皆様のおかげだと思っております。

伝統ある祭りの灯を消すことなく次年へ繋げていくため、精一杯努力していきたいと思っております。

私たちの愛する郷土が活気にあふれ、子ども達を笑顔にする祭りを作り上げるため、ぜひともご理解ご協力をお願いいたします。

猪俣百八燈 保存会長 ト部正明



猪俣の百八燈

猪俣の百八燈は、40年以上続く盆祭りの行事で、毎年8月15日に堂前山の尾根に築かれた百八基の塚に火をともし幻想的な行事です。

猪俣地区では、平安から鎌倉時代にかけて武蔵国で勢力を伸ばした武蔵七党のひとつ、猪俣党の棟梁、猪俣小平六範綱とその一族の霊を慰めるために伝えられています。

行事は、猪俣地区内の満6歳から満18歳までの子どもたちが、親方・次親方・後見・若衆組・子供組に分かれて行事の一切を取りしきり、大人の介入がないのが特色です。準備も子どもたちが行います。今年も、堂前山に百八の火が灯りました。

▲笛と太鼓のお囃子を披露する様子。披露が終わる頃、あたりは暗闇に変わり、百八燈行事の本番です。（この日のために、6月から練習を開始しました。）

▼猪俣氏の霊に拝礼後、提灯行列が塚のある堂前山へと向かう様子。（この日のために、人別、塚築き、燈明づくりなどを行いました。）

